

2020年度 第23回 関西まちづくり賞 表彰式を開催

日本都市計画学会関西支部では、1998年度から「関西まちづくり賞」を設け、まちづくり、都市計画の進歩・発展に著しい貢献をした優れた成果又は実績を表彰しています。2020年度は、3つのプロジェクトを表彰しました。

表彰式は、昨年度に引き続いて新型コロナの感染状況の影響を受け、幾度かの日程変更を経て必要最小限の参加者ではありましたが、2021年12月4日（土）、兵庫県立大学防災キャンパスにて開催に至り、表彰状及び盾の授与の後、受賞者によるプレゼンテーションとパネルディスカッションを行いました。



<第23回 関西まちづくり賞 表彰プロジェクトの紹介>

① 『「南花台スマートエイジング・シティ」団地再生モデル事業（咲く南花台わくわくプロジェクト）』

受賞者：河内長野市、株式会社コノミヤ、関西大学団地再編プロジェクト、

南花台スマートエイジング事業 総合研究会、大阪府、独立行政法人都市再生機構西日本支社

南花台団地（河内長野市）における団地再生の事例である。本地区は、関西大学団地再編プロジェクトをきっかけに、2014年から大学連携地域再編プロジェクトとして事業が開始されました。本事例は、シンボリックな活動拠点（コノミヤテラス）を中心に多様な人材が集い、協働することが内発的、自律的、かつ持続的なまちづくりに繋がっています。住民、教育施設（大学、専門学校）、行政、UR、商業施設が連携して様々な取組を展開しており、協定を締結することで連携を確実にしています。開発団地の課題解決のみならず、より魅力あるまちづくりが進められていること、同様の課題を抱える他地区の参考となることなどが評価されました。



ご受賞おめでとうございます



コノミヤテラスの日常

②『産官学連携による京都嵯峨野の竹林・田園保全 ～地域内連携を活かした循環型産業～』

受賞者：嵯峨地域農場づくり協議会、NPO 法人ひとともしデザイン研究所、京都市風致保全課、
NPO 法人京都発竹流域環境ネット、株式会社アドプランツコーポレーション、
景勝 小倉山を守る会、京都産業大学総合生命科学部、京都市動物園

古都の豊かな原風景を誇る嵯峨野地区における荒廃竹林、耕作放棄地に対する取り組みであり、竹林・農業・森づくりなどで培われた様々なスキルを持った人材や団体が連携しています。連携は竹林整備で出る間伐竹の「チップ化」、それを肥料にして作る「古今嵯峨米」、生産したタケノコを材料とした「タケノコカレー缶詰」などを生み出しています。米や缶詰のブランド化は、ふるさと納税の返礼品としても取り扱われるまでに成長しました。嵯峨野の風景も相まってファンが増えることですそのが広がり、平成 29 年のスタートから短い期間ながらもその成果は目覚ましいものがあります。

これらの取り組みは全国的な問題である荒廃竹林、耕作放棄地の対策として参考になるだけでなく、地域の様々な課題解決に向けて、地域の人材や資源を有機的に連携することでその地域らしさがブランディングへとつながる良い見本であると考えられます。



ご受賞おめでとうございます



「古今嵯峨米」と「タケノコカレー」

③『北岡本 100 年続く森づくり事業』 受賞者：北岡本自治会

北岡本自治会（兵庫県丹波市）は平成 26 年の豪雨災害により被災しました。その要因を「森林の手入れ不足」と捉え、防災研修や森林整備に取り組んでいます。自治会が山林の個人所有者の同意を取り付け、自ら森林管理を実施しています。また、子ども、女性、高齢者、地域外の学生など「幅広い参加の呼びかけ」と植樹祭など「みんなで楽しめる工夫」が持続可能な活動にしています。間伐した木材を出荷したり、応急災害復旧を目的として住民で預金を積み立てたりして自主財源を確保しています。こうした一連の取り組みは、地域の交流人口の増加にも寄与しており、地元の住民が主体となって行政、大学など他の機関や来訪者を巻き込みながら取り組み、一定の財源を確保する工夫は中山間地域におけるまちづくりに大いに参考になると評価されました。



ご受賞おめでとうございます



木の駅プロジェクトへの出荷の様子